

愛国殺人 ONE, TWO, BUCKLE MY SHOE

1992年作品

製作:ブライアン・イーストマン

監督:ロス・デベニッシュ

脚色:クライブ・エクストン

日本語版プロデューサー:里口 千

日本語版演出:山田 悦司

日本語版翻訳:宇津木 道子

出演:

エルキュール・ポワロ … デビッド・スーシェ/熊倉 一雄

ジャップ主任警部 … フィリップ・ジャクソン/坂口 芳貞

※ ※ ※

ガーダ … ジョアンナ・フィリップス=レーン/鈴木 弘子

ブランド … ピーター・プライス/天田 俊明

メイベル … キャロリン・コルクホーン/加藤 みどり

フランク・カーター … クリストファー・エクストン/大塚 芳忠

グラディス・ネヴィル … カレン・グレッドヒル/宗形 智子

ジェーン・オリヴェラ … セーラ・スチュワート/潘 恵子

ジュリア・オリヴェラ … ヘレン・ホートン/京田 尚子

アンベリオティス … ケヴォーク・マリキヤン/小林 清志

アグネス・フレッチャー … トリルビー・ジェームズ/安達 忍

アルフレッド・ビッグス … ジョー・グレコ/堀内 賢雄



©ITV Studios Limited 1993

ポワロが通う歯科医のモーリィが、自殺したという。同じ日、彼のギリシャ人患者が亡くなったことから、モーリィは、麻酔薬の誤った大量投与により自責の念にかられて自殺したと断定されるが、納得のいかないポワロは、独自に調査を始める。モーリィの患者だった銀行の頭取や女優の不可解な行動、偽電話で休暇を取られた歯科医の助手とその恋人、そして新たな女性の惨殺死体。やがてポワロによって、思わぬ真実が明らかとなる。

◆“愛国殺人”への怒り

原題『ONE, TWO, BUCKLE MY SHOE』は、マザー・ゲースの中で、数の学習によく用いられるものの一節です。ただ、原作の米版は『THE PATRIOTIC MURDER』と題されており、邦題はこちらに基いて付けられたタイトルでしょう。

ラストでは、その“愛国殺人”に対して激しい怒りを見せるポワロ。動機の如何に関わらず、殺人という行為は潔癖の魂を抱くポワロにとって最も忌み嫌う無秩序。如何な犯人であれ動機であれ、決して是とされるものではない。それが最終話に至るまで本シリーズ通底のテーマと言えるでしょう。

◆ジャップの家

捜査中のポワロがひょっこり訪れたのはジャップの私邸。彼のマイホームの描写は、これが初めてとなるはずですが、もちろん、ジャップ夫人は何かの会合とかで留守。なお、後の『ヒッコリー・ロードの殺人』のエピローグでも、ポワロがジャップ邸を訪れ、今回のニュアンスに近いユーモラスなシーンが描かれます。

さて、政治色の濃い本話ですが、血気盛んなフランクが入党した「黒シャツ党」とは、1930年代、ヨーロッパを席卷したファシズムの風に呼応し、オズワルド・モズレー卿が1932年に立ち上げた英国ファシズム連合のこと。モズレーはイタリアの黒シャツ党に倣い、党員の制服に黒い服を採用した為、その黒シャツがシンボル化したそうです。

◆個性派エクストンの諸役

そんなフランクを演じるクリストファー・エクストンは、日本の外国TVファンには結構おなじみの顔。本話とほぼ同時期の『心理探偵フィッツ』のビルポロー警部に、日本で久々のお目見えとなった『ドクター・フー』新シリーズの9代目ドクター、米TV『HEROES/ヒーローズ』では主人公ピーターを導く超能力者クロード役などが印象的です。

映画でも『28日後…』(2002)では生き残り部隊のウェスト少佐、米作品で『G. I. ジョー』(2009)の悪玉デストロ、更に近作では米『マイティ・ソー/ダークワールド』(2013)でソーの敵マレキス役といずれも、粗野なオーヴァーさが目立つ本話のフランクと一脈相通ずる、エキセントリックな役柄です。